

主 題：あきらめないで進む

聖書箇所：ヤコブの手紙 5章7-11節

あるショッキングな記事を見ました。それはクリスチャンに魅力を感じないと記された記事でした。というのは、クリスチャンの中に余りにも憂鬱な者たちが多すぎる、悩み続けている者たちが多すぎる、批判的で落ち込み続けている人が多すぎる、だから魅力を感じないというのです。世の中の私たちよりも悩みを抱えていると。今の世の中では大なり小なり皆悩みを抱えています。答えがどこにあるのかと捜しています。しかし残念なことは、聖書の中にその答えがないと、そのように確信している人が多いというのは、これほど悲しいことはありません。確かに、私たちの周りには多くの問題があるかもしれませんが。私たちを落ち込ませる様々な要因があるかもしれませんが。しかし、その中であって私たちは勝利することができるのです。その中であって私たちは喜んで感謝して生きて行くことができるのです。悩み続けることができる状況で、苦しみ続けることができる状況で、愚痴や不満が出てきてもおかしくないような状況で、人を責めたくなくてもおかしくない状況で、落ち込んでもおかしくない状況で、生きていること自体が苦しく感じる状況で、死にたいと叫びたくなる状況で、もう何もかもいやだと感じる状況においても、私たちクリスチャンは勝利することができるのです。どのようにすれば、そのようにできるのでしょうか？実は、そのことを私たちが今日見ようとしているみことばから、ヤコブは教えてくれるのです。

5：7から見て行きますが、最初にこのように記されています。「**こういうわけですから、兄弟たち。**」と、これまでに話してきたことに基づいて、ヤコブはある結論を話そうとするのです。前回見たように、5章に入ってまずヤコブは金持ちに対する警告を与えました。この人たちは神よりもお金を愛した人たちでした。神よりもこの世の様々なもの、物質を愛した人々でした。そしてヤコブは、そのような人々に下る神の審判を教えたのです。神は必ず、私たち人間一人ひとりの行ないをさばかれることを教えました。「**こういうわけですから、**」と、そのことが事実だから、クリスチャンの皆さん、だから、あなたがたはこのように生きて行くことが必要だと彼は教えるのです。つまり、誘惑に負けてはいけない、彼らの生き方を見て惑わされてはいけない、しっかりと神が喜ばれるように生きて行きなさいと言うのです。7節を見ると「**主が来られる時まで耐え忍びなさい。**」とあり、7-8節にはヤコブは「**耐え忍びなさい**」ということばを三度使っています。これがヤコブがここで言いたかったことであるというのは明らかです。耐え忍ぶように、忍耐をもって生きるように、それがヤコブが言いたかったことです。「**耐え忍ぶ**」ということばは、すぐに燃える、激する怒り、憤りという、それと全く反対の意味をもったことばです。ですから、忍耐強く待つように、辛抱強く待ちなさいと、そういう意味です。新約聖書を見ると、この「**忍耐強く**」ということばは、神のご性質を表わすことばとしても使われています。ローマ2：4には「**それとも、神の慈愛があなたを悔い改めに導くことも知らないで、その豊かな慈愛と忍耐と寛容とを軽んじているのですか。**」とあります。神は愛と忍耐と寛容にあふれたお方であると教えています。同じローマ9：22では「**ですが、もし神が、怒りを示してご自分の力を知らせようと望んでおられるのに、その滅ぼされるべき怒りの器を、豊かな寛容をもって忍耐してくださったとしたら、どうでしょうか。**」とあります。また、Ⅱペテロ3：9には「**主は、ある人たちがおそいと思っているように、その約束のことを遅らせておられるのではありません。かえって、あなたがたに対して忍耐深くあられるのであって、ひとりでも滅びることを望まず、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。**」と教えています。つまり、神は私たちのように罪に罪を重ねている者たちをご覧になって、もういい、もうさばこうと、そうなさってもよかったのに、神は忍耐をもって、一人でも多くの罪人が神の救いにあずかるように、罪の赦しをいただくようにと待っておられる、これが神だと教えているのです。忍耐深い神です。そういう神だということを聖書は教えるのですが、同時に、あなたもそのように生きて行きなさいと、つまり、信者に対してそのことを聖書は教え続けるのです。Ⅰペテロ2：20では「**罪を犯したために打ちたたかれて、それを耐え忍んだからといって、何の誉れになるでしょう。けれども、善を行なっていて苦しみを受け、それを耐え忍ぶとしたら、それは、神に喜ばれることです。**」とペテロは言います。また、ヘブル6：12には「**それは、あなたがたがなまけずに、信仰と忍耐によって約束のものを相続するあの人たちに、ならう者となるためです。**」と、つまり、神が約束されたものを私たちが手に入れるために必要なものは忍耐なのです。そして、神の前にふさわしい生き方というのは、どんなときでも神の約束をしっかり覚えて生きて行くことです。私たちの信仰が強くなって行くためには、私たちがどのように感じるとか、どのように思うかではありません。神のおことばがどう教えているか、どんな約束が与えられたか、そこに立たなければなりません。そのときに、私たちの信仰が強くなるのです。神がこう約束された、それを私は信じるのだと。こう思うとか、こう感じるとかい

う信仰は弱いです。それはぐらつくことが多いからです。こういう経験をした、それも弱いです。そう
いった感動はすぐに薄れて行きます。でも、みことばがこう言っている、神がこう約束された、それ
に立った場合、このみことばが変わらない以上、私たちの確信も変わらないのです。そのことをヘブル
6：12のみことばが教えているのです。また、同じヘブル10：36でも「**あなたがたが神のみこころを
行なって、約束のものを手に入れるために必要なのは忍耐です。**」と教えています。いろいろな問題、悩みが
あるかもしれないけれど、神に信頼して行くなれば、それらに勝利することができる、とヘブル書の著者も
言うのです。ですから、ヘブル12：1に「**こういうわけで、このように多くの証人たちが、雲のように私
たちを取り巻いているのですから、私たちも、いっさいの重荷とまつわりつく罪とを捨てて、私たちの前に置かれて
いる競走を忍耐をもって走り続けようではありませんか。**」とあるように、困難や問題に対して、それらを克
服するためにはこの忍耐の力があるということです。このみことばから神が私たちクリスチャンに求め
ておられることは、たくさん問題、苦しみがあるかもしれないが、その中であってあなたに必要なこ
とは、しっかり神の約束に立ち、神を信頼して正しく歩み続けて行きなさい、そのときにあなたはそれ
らの問題に勝利することができるのだということです。そして、「**主が来られる時まで耐え忍びなさい。**」
と、このことばの時制を見ると、それは継続してこの地上を去るまで、神がこの地上に置いてくださ
っている間、そのような態度を保ち続けて行くようにと、そのことをヤコブは教えているのです。

さて、今日私たちが見ていることは、いろいろな問題があるその状況の中で私たちは喜びや感謝をも
って生きて行くことができるということです。どのようにすればいいのかも教えられました。神を信頼
して生きて行くことです。しかし現実には、それがとても難しいことを私たちは知っています。それにつ
いて多くの説明は不要です。なぜなら、皆、そのことを日々の生活で経験しているからです。分かっ
ているけれどなかなか実践できない、いろいろな問題に会うとどうもそれに流されてしまって落ち込ん
でしまったり、苦しんでしまって、そこから抜け出すことができない、分かっているでもそれができ
ないと、残念ながらこれが私たちの信仰生活ではないかと思えます。そこで、ヤコブはこのみことばを
とおして私たちに、確かに、この難しい私たちの力では到底できないことをどのようにすれば実践できるのか、
そのことを教えてくれるのです。

☆忍耐をもって生きて行くために

この7-11節でヤコブは三つのアドバイスを与えてくれます。

1. 与えられている祝福を覚えていなさい 7-8節

もう一度7節から見ましょう。「**こういうわけですから、兄弟たち。主が来られる時まで耐え忍びなさい。
見なさい。農夫は、大地の貴重な実りを、秋の雨や春の雨が降るまで、耐え忍んで待っています。：8
あなたがたも耐え忍びなさい。心を強くしなさい。主の来られるのが近いからです。**」と、ヤコブは大切なことを教えて
います。

(1) 苦しみは永続しない

私たちがいろいろな苦しみに会うとき、私たちはいつまでこの苦しみが続くのかと
思ってしまう。しかし、みことばはそれは永続しないと教えます。苦しみがずっと私
たちを苦しみ続けることはないのです。「**主が来られる時まで**」とあります。主が来
られたら終わるのです。苦しみ、問題、悩みから完全に解放される時が来るの
です。私たちはそのことを覚えることです。なぜなら、絶望の中にいる人とい
うのはトンネルの先が見えないのです。光が見えないのです。しかし、みことば
は終わりがあると教えます。そして、このことをこの当時の読者たちが一番分
かるたとえをもってヤコブは教えます。農夫のたとえです。ここに、秋の雨と春
の雨とあります。秋の雨は「はじめの雨」とも言い、10月末から11月初めに
降る雨のことです。この雨がないと、土地が非常に乾燥しているパレスチナ地
方では、種を植えるにも困難です。雨があって土地が湿っているとそれができ
るので農夫は雨を待ちます。発芽と耕作のために必要な雨です。そして、春
の雨は4月から5月にかけて降る「終わりの雨」と言われます。これは作物の
成長のために必要です。気温の上昇とともに成長が促されます。農夫たちはそ
れを待ったのです。そのことをヤコブは言います。自分の力ではどうにもでき
ないのです。神がくださる自然の恵みを信じて期待するのです。だから、あな
たがたも忍耐をもってそのとき、主が来られるときを待つことが必要だとい
うのです。

(2) 報いの日は近い

8節に「**主の来られるのが近いからです**」とあります。これはキリストの再臨のこ
とです。イエス・キリストが肉体をもって帰って来られる、そのときです。その約
束は聖書の中にすでに与えられています。キリストがオリブ山から昇天され
たとき、それを見ていた弟子たちに対して御使いは言います。「**ガリラヤ
の人たち。なぜ天を見上げて立っているのですか。あなたがたを離れて天に上
げられたこのイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たときと同じ
有様で、またおいでになります。**」(使徒1：11)とこれは約束です。また、
テトス2：13には「**祝福された望み、すなわち、大いなる神であり私
たちの救い主であるキ**

リスト・イエスの栄光ある現われを待ち望むようにと教えさとしたからです。」とあり、クリスチャンにとっての大きな祝福はイエス・キリストが再び帰って来られることだとパウロは教えています。クリスチャンはそのことを信じて様々な苦難に耐えてきたのです。多くの人々が殉教して行ったのは、彼らがこの地上だけですべてが終わるのではなく、その先があること、しかも、イエス・キリストが私を迎えに来てくださるのだと希望をもって生きていたからです。そして、この「近い」というのは、まだ来ていないけれど、その日が非常に近いことを表わすのです。そこで、ヤコブはそのことが事実であるゆえに、このようにことばを与えます。「心を強くしなさい」と、これは「しっかり固定する、安定させる、強固にする」という意味をもったことばです。あなたがたの心を強くしなさい、揺るがないものにしなさい、いろいろな思い煩いや苦しみで心を騒がせるようなことがあってはならないと言うのです。このことばは特に、ルカ9章でこのように使われています。9：51に「さて、天に上げられる日が近づいて来たころ、イエスは、エルサレムに行こうとして御顔をまっすぐ向けられ、」とあります。これからエルサレムに行こうとされたイエスは、エルサレムで何が待っているのかをご存じでした。迫害を受け自分が十字架にかけられて殺されること、そのことを知っていながら、イエスはエルサレムに「御顔をまっすぐ向けられ」たのです。この「まっすぐ向けられ」たというのが、「心を強くする」ということばなのです。イエスはエルサレムで危険があることを知っていながらそこに向かって行こうとするのです。なぜでしょう？私たちは問題があるならそこを避けようとし、できるだけ困難に会わないように、問題に会わないように、苦しみに会わないようにと考えます。しかし、イエスはこれから何が自分の身に起こるのかを知った上で、その道を敢えて選択し「エルサレムに行こうとして御顔をまっすぐ向け」たのです。それは、イエス・キリストがエルサレムに行くことが神のみこころであることを確信していたからです。不安や恐れから神のみこころに反した生き方を選択しようとしたのではなく、確かに、大変なことが待っていることは分かっているけれど、わたしの責任は神の前に正しく歩んで行くことであると、その歩みを選択したのです。そこで、ヤコブは読者たちに言うのです。あなたがたも怯むことなく希望をもって忍耐強く歩み続けて行きなさいと…。いろいろなことで心を煩わしてしまっ、道から逸れ、神のみこころから外れてしまうことがないように、どんなときにも、神のみこころに従って生きて行くことを選択するようにと、ヤコブは励ますのです。あなたがその選択をしなさいと言います。そうすることによって、私たちはいろいろなことに心ぐらつかせることがないのです。神の前に忠実に生きて行くために、神からの祝福を忘れてはならない、私たちがこの人生を神の前に正しく生きたなら、その歩みに対して、神は間違いなく祝福をくださるのです。心騒がせることなく心を強くして歩みなさいとヤコブは言います。

2. さばきをいつも覚えなさい 9節

9節「兄弟たち。互いにつぶやき合ってはいけません。さばかれたいからです。見なさい。さばきの主が、戸口のところに立っておられます。」と、ヤコブが言うことは罪を赦してはいけないということです。罪から離れるようにと。この「つぶやく」ということばを聞くと、不平や愚痴、ぶつぶつ言うことを連想します。しかし、ここで使われているのはそのように口に出して言うというより、そのような感情を心の内に抱いていること、表に出さないこと、そういう意味です。言わなくても心の中でそのような思いをずっと持っている、そういう状態を言っているのです。もっと厳しい命令です。しかも、「つぶやき合ってはいけません」と現在形を使っているのは、それが私たちの弱さであることをヤコブは知っているからです。私たちはすぐに心の中で良くない思いを持ってしまっ、それを放っておくと私たちの口からそれが出てくるのです。だから、今していること、習慣的にしていることを、すぐに止めなさいとヤコブはここで言っているのです。しかし、難しいことです。人への不満や批判は日常茶飯事です。簡単に犯してしまう罪です。だから、ヤコブは3章で舌の罪についての警告をしました。

「つぶやき合ってはいけません」、人に対して悪い思いを抱いてはいけないと言います。なぜ、いけないのか、ヤコブはここで二つの理由を教えています。

(1) それが罪だから、神のみこころに反する罪だから。

イエスが何度も話されました。マタイ7：1「さばいてはいけません。さばかれたいからです。」と。また、ルカ6：37でも「さばいてはいけません。そうすれば、自分もさばかれません。人を罪に定めてはいけません。そうすれば、自分も罪に定められません。赦しなさい。そうすれば、自分も赦されます。」と言われました。なぜ、私たちは人をさばいたりしないのか、人に対して悪い思いを持たないのか、それが罪だからです。そのような思いが出てくるならそれを放って置かないのです。神の前にそれを告白します。それらをいつまでも心に蓄えていても何の良いこともない、それがどんどん悪い影響を与えていつの間にか口から出てくるのです。いろいろな人を巻き込んで行く危険性があるのです。罪だから止めなさいと言います。

(2) 神の祝福を失う。

「さばきの主が、戸口のところに立っておられます。」とあります。これはさばいてクリスチャンを地獄に送る、そのさばきの主、そんなことを言っているわけではありません。クリスチャンは罪が赦されたので

あって、永遠の滅びに至ることはないのです。では、この「さばきの主」とは何のことを言っているのでしょうか？私たちの地上のクリスチャンとしての働きに報いを与えることです。私たちのクリスチャンとしての生き様に対して真価を問われる方、ほうびを与える方です。その方がもう戸口に立っていると、この「戸口」が複数であることは、その裁判所の法廷に至るには多くの扉があったのでしょうか、それらが開かれて裁判官が出廷してくる、まさにその扉が開かれようとしているということです。つまり、その日が非常に近いということです。だからこそ、今、私たちは自分の歩みを吟味して、罪を赦してしまうことのないようにしなさいと教えるのです。どんな小さな罪でもそれを主の前に告白しなさいと言うのです。なぜなら、それによって私たちは神からの祝福を失ってしまう可能性があるからです。神が「よくやった」と言ってくださることが私たちの大きな喜びだけれど、その祝福を逃してしまう危険性がある、罪から離れなさいとヤコブはそのことを警告するのです。

3. 模範を覚えなさい 10-11節

「苦難と忍耐については、兄弟たち、主の御名によって語った預言者たちを模範にしなさい。:11 見なさい。耐え忍んだ人たちは幸いであると、私たちは考えます。あなたがたは、ヨブの忍耐のことを聞いています。また、主が彼になさったことの結末を見たのです。」、ヤコブはここでこのような生き方を実践した人がいると言うのです。困難の中で神を信頼して生きた人々がいる、それは信仰の先輩たちだと。そのことを言った上でヤコブは、「耐え忍んだ人たちは幸いである」と言いました。忍耐をもって生きて行くこと、それは祝福だと言います。いろいろな問題の中で、その問題に飲み込まれてしまって、人々に対して、また神に対しても不平や不満を言いながら生きることもできます、みじめな生活を送ることもできます。しかし、もうそのような生活ではなく、神に喜ばれることをしたいとして、今教えられているように、神の前に正しく生きて行こうとするなら、神はあなたを大いに祝してくださるのです。その例をここに挙げています。ヨブのことです。旧約聖書のエゼキエル14:14、20には「たとい、そこに、ノアとダニエルとヨブの、これら三人の者がいても、」と、ヨブの名が出ています。このヨブはどのような経験をしたのか、皆さんもよくご存じのことでしょうが、簡単に思い出して見ましょう。ヨブ記の1、2章に記されていることは、ヨブが経験した大変なことです。彼は自分の財産、子どもを失うのです。非常に裕福でした。男の子が7人と女の子が3人いました、家畜も多かった、羊が7000頭、らくだが3000頭、牛が500頭、雌ろばが500頭いたと記されています。しもべもたくさんいた。ところが彼はそれを全部失うのです。しかも、彼自身が悪性の腫瘍に冒されるのです。そのような状態に置かれた彼のところに、三人の友人がやって来て、「あなたの問題が何か分かっているか？それはあなたが罪を犯しているからだ、罪を告白したら神はまた祝福してくれるに違いない」ともっともらしく言うのですが、彼らの間違いは、何が真実なのか、なぜこのようなことが起こっているのかを考えもしないで、先入観でヨブを責めるのです。もちろん、ヨブにも間違いがありました。非常にプライドが高かったのです。しかし、神はヨブのうちに働いて、大切なことを教えられたのです。その結果、何が起こったのでしょうか？ヨブ記の最後に書かれています。42:10-12「ヨブがその友人たちのために祈ったとき、主はヨブを元どおりにし、さらに主はヨブの所有物をすべて二倍に増された。:11 こうして彼のすべての兄弟、すべての姉妹、それに以前のすべての知人は、彼のところに来て、彼の家で彼とともに食事をした。そして彼をいたわり、主が彼の上にもたらししたすべてのわざわいについて、彼を慰めた。彼らはめいめい一ケシタと金の輪一つずつを彼に与えた。:12 主はヨブの前の半生よりあとの半生をもっと祝福された。それで彼は羊一万四千頭、らくだ六千頭、牛一千くびき、雌ろば一千頭を持つことになった。」、今までの生涯よりも苦難の後の彼の生涯を神は大いに祝したと、そのようにみことばは教えています。なぜ、神はヨブを祝したのでしょうか？それはヨブ自身の信仰がその原因です。彼はこのように言います。19:25「私は知っている。私を贖う方は生きておられ、後の日に、ちりの上に立たれることを。」と、神が帰って来られることを彼は確信しているのです。後にはこの方はこの地の上に立たれると。今見て来たように、もう主が帰って来られることを待ち望みながら、日々を過ごして行くようにと、まさに、ヨブはそういう生き方をしていたのです。

同時に、16:19にはこう記されています。「今でも天には、私の証人がおられます。私を保証してくださる方は高い所におられます。」と、ヨブは神がどのようなお方であるかをよく知っているのです。人はいろいろなことを言うかもしれないが、神は分かっておられる、この方が私の証人だと言います。そのことをしっかり覚えることは今の私たちにとって慰めです。人は誤解するけれど神は分かってくださっている。だから、ヨブは神の約束を知っているし、同時に、神がどのようなお方かもよく知っているのです。そのような人物だったから、彼はいろいろな問題の中、私たちが経験したこともないような大変な苦しみの中で、なおも神に信頼し続けたのです。それゆえに、神は彼を大いに祝したというのです。だから、ヤコブが読者に言うことは、このようなことを神はなさったのだから、あなたたちもヨブの生き方に倣って、忠実に正しく生きて行きなさいということです。11節にある「ヨブの忍耐のことを聞いています。」と、この「忍耐」ということばは、逆境の中忍耐するとか、辛抱強くあるということです。ヨブ

のそれが神に誉められたのです。このことばについてある神学者はこのように説明します。「このことばは自動的な忍耐ではなく、疑いと悲しみと悲惨の波に大胆に立ち向かい、信仰に敵対する勢力よりさらに強い信仰を確保することのできる、勇敢な精神を表わしたことばである」と。どんなことがあっても彼はそれに勇敢に立ち向かおうとしたのです。それができたのは、ヨブ自身の力ではないのです。神がどういってお方かを覚えたからです。このような神だから信頼に値するし信頼しようとしたのです。全能の神だから、真実な神だから信じようと、そのように生きたのです。そして、まさにそれはイエス・キリストご自身の歩みにも見ることができることです。ヘブル12：2-3にこのようにあります。「**信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。イエスは、ご自分の前に置かれた喜びのゆえに、はずかしめをものともせず、十字架を忍び、神の御座の右に着座されました。：3 あなたがたは、罪人たちのこのような反抗を忍ばれた方のことを考えなさい。それは、あなたがたの心が元気を失い、疲れ果ててしまわないためです。**」、イエスはどのように生きたのでしょうか？先を見るならそこにあるのは十字架です。それがはっきりしていたのです。しかし、イエスはそれを避けようとはせず、喜びと思ったのです。なぜでしょう？罪のない方が罪ある者として身代わりに死ぬなど、どうして喜べるのでしょうか？このことをよく分かっているなければ、私たちは神が下さる祝福を自分のものにはできないのです。本当の喜びというのは神のみこころを行なうときにのみ、神が与えてくれるものなのです。イエスが十字架を喜びとされたのは、神のみこころに従って行くときに本当の喜びがあるからです。あなたが神から本当の祝福をいただくとするなら、神のみこころに従って行くことです。5章の最後を見ましょう。「**主は慈愛に富み、あわれみに満ちておられる方だということです。**」と、神はこのようなお方です。こんな罪深い私たちに対しても、あわれみをかけてくださり、救ってくださり、罪を赦してくださり、使ってくださる、こんなすばらしい特権に神は私たちを招いてくださったのです。神を見上げること、どんな神かを覚えること、その神に信頼して生きて行くことです。

聖書は私たちにはいろいろな実例を与えてくれます。詩篇の一人の著者はいろいろな問題に遭遇していたようです。大変な問題の中、彼は神にあってそれに勝利して行くのです。すばらしいレッスンです。詩篇42篇のみことばを見ましょう。1-5節までと6-11節の二つに分かれます。3節に「**私の涙は、昼も夜も、私の食べ物でした。人が一日中「おまえの神はどこにいるのか。」と私に言う間。**」とあります。彼は悲しみ続けていたのです。人々が彼のことをそしりあざけたのです。「**おまえの神はどこにいるのか。**」と。5節「**わがたましいよ。なぜ、おまえは絶望しているのか。御前で思い乱れているのか。**」と、これが彼の心の状態だったのです。苦しいことがあれば私たちの心は乱れます。苦しいことや辛いことがあると私たちは希望を失って絶望してしまいます。私たちが遭遇するような問題に、この詩篇の著者も遭遇していたのです。6節「**私の神よ。私のたましいは御前に絶望しています。**」、7節「**あなたの大滝のとどろきに、淵が淵を呼び起こし、あなたの波、あなたの大波は、みな私の上を越えて行きました。**」と、苦しみが大波のように私を覆っていったというのです。絶望の中にいたと。そして、9節を見ると「**私は、わが巖の神に申し上げます。「なぜ、あなたは私をお忘れになったのですか。なぜ私は敵のしいたげに、嘆いて歩くのですか。」**」と、祈っても答えが与えられない、神さま、私を忘れたのですか？と、苦しみの中で神に叫び続けているのに、神は答えてくださらない、そのような経験は私たちにもありますが、この著者も経験しているのです。まさに、私たち自身の姿をここに見るのです。その中であって彼はどうしたのでしょうか？神を恨んで神に文句を言い、不平不満を言いながらみじめな人生を終えていった、とそのようには書いていません。11節に「**わがたましいよ。なぜ、おまえは絶望しているのか。なぜ、御前で思い乱れているのか。**」と5節と同じことが繰り返されています。5節の後半「**神を待ち望め。私はなおも神をほめたたえる。御顔の救いを。**」、11節の後半「**神を待ち望め。私はなおも神をほめたたえる。私の救い、私の神を。**」と、この著者は大変な状況の中でその状況に勝利したのです。どのようにして勝利したのでしょうか？彼は絶望の中、苦しみの中でそのまま生き続けるのではなく、私は神を信じ神に信頼して歩んで行く、そのことを自分の心に宣告するのです。心から問題が出て来るからです。神の前に正しく生きて行きたいから神よ、私を助けてくださいと、彼は神をほめたたえるのです。そのことによって彼は問題を解決したのです。私たちが問題を抱えているとき、私たちの口から出てこないのは神への賛美、感謝で、出てくるのは愚痴であり不満です。私たちも心に言わなければいけません。こういう生き方は止める、神さま、あなたをたたえます、感謝します、あなたを信頼してあなたに従って生きて行きますと。

ロイド・ジョーンズはこのように言います。「すべての霊的スランプの究極的な原因は不信仰にある。神に聞き従う代わりに、悪魔に聞き従うからである。それは抑圧の中で神を忘れてしまい、そのために神と神の力への信仰を失い、また、神との正しい関係と信仰が本来のすがたからはずれていたからである。意味ある信仰生活を送る秘訣は自己を制する方法を知ることである。自己に主導権を渡すならあなたはいつでもスランプに陥られるからである。自分自身をコントロールし、自己に語りかけ説教し、自己に問いかけるべきである。自分のたましいに向かって、なぜ、おまえは絶望しているのか、何につ

いて思い乱れているのか、と尋ねなければならない。抑圧され喜びを失った境遇にあって、嘆く代わりに自己と対決し、自己を非難し、訓戒し、自己に宣告し、神を待ち望めと諭さなければならない。さらに進んで、自己に神を思い出させ、神とはだれか、神はどんなお方で何をされたか、また、何をすると約束されたかを思い起こさなければならない」と。そのときに私たちは勝利すると、そのことをヤコブは今日私たちに教えてくれたのです。

多くの問題があります。でも、その中で勝利することができます。悩み続けることのできる状況、苦しみ続けることのできる状況、愚痴や不満が出てきてもおかしくない状況、そのような中であって私たちは喜び感謝をもって生きることができるのです。神をしっかり信じ信頼して、神の前を正しく歩んで行くことです。主にお会いする日は近いのです。ですから、怠けずに怯まずに従い続けて行くことです。それが秘訣だと言うのです。クリスチャンの皆さん、私たちはこの世に証をするために神によって救われ置かれているのです。私たちが神が与えてくださる喜びをもって生きていなければ、どんなキリストを私たちは世に証しているのでしょうか？しっかり、この秘訣に沿って歩んでください。そして、このすばらしい主を証し続けて行きましょう。